

令和5年6月

村長所信表明

丹波山村

本日、6月定例議会の開会に当たりまして、一言ごあいさつとこれからの村政運営につきまして、私の決意の一端を申し述べさせていただきます。この度の丹波山村長選挙におきまして、初当選の栄を得、6月9日付をもちまして丹波山村長に就任いたしました。過半の得票をいただくことができたとは言え、この度の選挙結果を厳粛に受け止め、前岡部村長をはじめ、これまで丹波山村を築き上げてこられた諸先輩方のむらづくりへの思いを、しっかりと受け継いでまいりたいと考えております。また、議員の皆様におかれましては、日夜、村民皆様の声を聞き、解決を図るなどの幅広いご活動に、改めて敬意を表します。議会と行政は、地方自治を担う車の両輪として、それぞれの立場で切磋琢磨し、議論を尽くし、協力し合いながら、丹波山村の発展のために力を尽くしていくべき存在であると考えております。これからの村政運営に当たって、議員皆様の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、私がこれから進めていこうと考えています主要な施策について述べさせていただきます。本日は、この度の選挙で掲げていた4つの項目を中心に説明させていただきます。私の大きな目標として、村民だれ一人取り残さない、いつまでも続く村を目指して今後の政

策を進めていきたいと考えております。現在の丹波山村の状況は、多くの皆様も耳にしていると思われませんが、村の財政運営が厳しいところまでできています。この状況だからこそ、創意工夫しながら慎重に事業を進めていくことが大切であると認識しております。

一つ目として、高齢者・家族が安心して暮らせる村づくりを進めていきます。

人口が減少するこの村で、高齢者の方、その他の方々も同様ですが、家族や親戚など周りの人が少なくなっていく不安に駆られていると思います。特に一人暮らしや高齢者世帯になると、まず、その不安を解消することを考えていくことが必要となります。村の高齢者福祉の中心として、社会福祉協議会の運営するデイサービス等はあるのですが、これらのサービスはあくまでも介護保険制度の枠の中で実施されているものです。今後、現存のサービスはこれまで以上に充実させていく所存ではありますが、介護保険制度の枠に入らない要介護認定を受けることもない健康な高齢者の方々も日々、多くの不安を抱えていると見受けられます。介護保険制度にとらわれない、高齢者の方々がだれでも気軽に集まれ、見守れる場所を空き家等の利用により確保していきたいと考えております。その場所で、みんなが集ま

ってお茶のみ話をするのもよし、他の人に見守られている中で健康づくりや習いごとをするのもよし、毎日でも皆様が行きたくなるような場所づくりが理想です。また、高齢者の一時預かりもできるようになれば一緒に暮らす家族が急な用事などに対応できる時間をつくることも可能となります。そのためにも今後、社会福祉協議会が活躍できるよう村としても力を入れていきたいと考えております。同様に、村内の、例えば診療所などに通いたくても、移動手段がなく不便を感じている方が多いと見受けられますので、現在、稼働している村民タクシーの利用補助や誰でも送迎の利用できる車両を配置するとともに、高齢者に限らず、車を所持しないなどの交通弱者のためのレンタカーやカーシェアリングなども研究していきたいと考えております。また、65歳以上のいわゆるシニア世代で仕事を引退した方々でも、健康であって、若い人たち以上に仕事のノウハウを持ち合わせているのに時間を持て余していることもあるのではないのでしょうか。村の中には農林業・環境整備・見守りなど幅広く細かい作業がありますが、そのシニア世代が活躍できるよう一日短時間でもかまわないので働ける環境をつくることができれば、村と個人お互いにとって有益なものになることはまちがいと考えられます。そのためにも、大

大きく考えればシルバー人材センターですが、規模等を考慮しながら丹波山村にあった制度をつくっていきたいと考えております。

2つ目の目標として安心して子育てができ、子供の成長をみんなで見守れる村づくりを進めていきます。

子育て世代の共通した課題は子供を見守る時間と親の用事や働きに行く時間とのバランスが取りにくいことだと考えます。すでに「たばっこクラブ」という事業が展開され、効果が表れていると見受けられますが、それ以上に、子供を見守れる時間、見守るスタッフなどを拡大することにより、親の時間の自由度が広がり安心して働く環境もでき、子供の可能性を伸ばすための有効な時間を確保できると考えます。これからの時代、クラブ活動など放課後の時間の使い方も変化していくものと思われまます。そのような中で、村に住んでいる各方で豊富な知識を持ちあわせた方々の協力体制づくりや、それ以外に必要な部門があれば、地域おこし協力体制度等を活用することにより、それぞれの子供たちの可能性を広げることができるのではないかと考えております。また、現在、子供の教育にかかる補助金は充実しているものと思われまます。ただ、この村での子育ては中学校を卒業する時期が大きなターニングポイントとなり、子供がどういう方

向に進み、どこで暮らすかなど、みなさんが悩むこおりになります。

その時に村として支援できる基金をつくりたいと考えています。村で生まれた月から、または、村に引っ越してきた月から中学校を卒業する日まで在籍することを条件で毎月、村が基金として一定額を積み立て、卒業時にのみ支援する形をとることができればと考えております。現状の貸付基金とは別の制度を用意することによって、子供たちも卒業後の返済で苦労しないのではないかと考えます。この基金の原資はふるさと納税を充てることが理想だと考えております。

3つ目の目標として若者が活気をもって働ける村づくりを進めていきます。

先日、山梨県でも人口減少危機突破宣言が発表されましたが、丹波山村においても切実な問題となっています。人口減少を解消するためには若い世代が住みたいという環境を作っていかなければならないと考えます。

まず、最大の課題は働ける場所、雇用の確保だと考えます。村の主産業である観光におきましては、まだまだ、人を呼んで稼げる可能性がおおいにあると考えます。稼げる観光を実現できれば、村は活気づき、雇用の場も増え経済も潤うことでしょう。ここ数年の観光事業は

コロナウイルスの影響等により収益力が落ちている現状ですが、今後は人の動きも活発になってくると考えられます。そこを取り逃さないよう、各種団体や各事業者等と協力しながら、情報発信の強化や宿泊も含めた長時間滞在する仕組みをつくりあげていきたいと考えております。また、村営つり場をはじめとする村営観光施設の指定管理化を実施するなどして、受け身の観光から攻める観光へと変えていきたいと考えます。農林業につきましては遊休農地や耕作放棄地が増加し、手入れされていない森林も多くあるため村の中心から周りを見渡すと村全体が荒れ果てている感がぬぐえません。村を訪れる人たちは自然が豊富と思うのか、村が荒れ果てていると思うのかは定かではありませんが、村に住んでいる私どもにとっては悲しい限りです。現在、農業は観光と合わせた6次産業化が活発になり、林業では先日協定を結んだ日本コカ・コーラ株式会社など企業協力により森林の整備が進むことで仕事の場が増えつつあります。このような状況の中で、新しく起業を考えている方や、これまでの会社で新事業を進めたいという方々を支援するため、ふるさと納税を原資とした未来投資基金を設置していきたいと考えております。村が投資という形で創業者や事業者を支援することにより、村の経済は好転し、

雇用も増え、村が活性化していくことと考えております。

仕事の次の課題が住むための住宅になります。現在、空き家調査等の活動が活発に行われ、空き家の全容がわかるところまでできていますが、所有者の同意、長い年月を重ねた建物など活用するまでが難しい状況が見受けられます。現状では村だけで解決することは厳しいところもありますので、民間業者と協力しながら進めていくことが必要と考えております。村としては住宅の確保をするためには、国や県の補助金を利用した計画的改修や、若い人の中には広い空き家より一人暮らしに適した住宅もという意見も多いので、できるだけ、村の財政に負担をかけないような新築住宅の建設も併せて検討していきたいと考えております。

4つ目の目標として掲げた、未来の村づくりですが、何度も言わせていただきますが、この丹波山村の財政はかなり厳しいところまで来ています。今年度の当初予算を見ても、基金繰入金が4億5千万円近くになっています。それに加え、現在の基金残高は16億円となっています。あくまでも単純な計算をすれば、このままでは4年で財政が破綻することになります。私が掲げている施策や今後、災害発生時の対応、有線テレビ施設、水道事業など必要に迫られて実施しなけれ

ばならない多くの事業も、村が単独で進めていくことが不可能な事業費となってきています。だからこそ、将来を見通した財政計画、国に取り残されないための国や県の補助金の活用、ふるさと納税の増額など、収入を増やすための積極的な動きをしていきます。それに伴い、全員でこの村の将来を考えていくために、村民皆様の声が届き、村民皆様から見えやすい体制づくりをしていきたいと考えています。現在、この場がそうですが、議員の皆様と村が議会で議論を尽くし協力し合いながら村の方向性を決めていく形になっています。議員の皆様はそれぞれ、村民の代表として活躍されていますが、この危機的状況を危惧している声が村まで届かない状況も見受けられます。そこで、多くの方の意見や疑問などの声を直接聞き入れるため、各世代や地区などいろいろな構成で小規模な会議室をつくり村民の皆様と村の会話をする場を増やしていくことで、村民の皆様から見えやすい村が作れるものと考えています。これまで村の職員として33年間、村民の皆様の声に対しては真摯に耳を傾けてきたつもりですが、これからは、村長の立場で村民の皆様への思いをしっかりと受け止め、皆様から合格点をもらえるよう、村政運営に努めていく所存であります。そのためにも、様々な年代や立場の違う人達の声聞き、

対話と理解を深めたいと思います。村民や事業者からの提案をお聴きし、対話することに最大限の努力を傾けてまいります。

現在、将来に向け、丹波山村第5次総合計画、丹波山村第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、その目標に向かって村政を進めているところです。そのうえで避けられないことの一つが多くの場面でのデジタル化への移行です。今から30年前にテレビ放映もそれまでのアナログ波が廃止されデジタル放送へ移行され、誰もがデジタルに対応したテレビを買い替えるという状況でした。その時も国が期限を決め、デジタル化は容赦なく進みました。昨年、村の防災無線もデジタル化のため機器を変更し村民の皆様には多くの不便をおかけしているところです。その状況の中で国はデジタル庁を発足し、マイナンバーカードをはじめデジタル化に向け急速に動き始めています。ただ、最近のニュースでも騒がれていますが国レベルでも混乱が生じている状況です。そうなるとう当然、村民の皆様も使い方などで混乱が生じることは避けられません。しかし、デジタル化への移行は待ってられません。そこで、将来皆様が困らないよう個々に使い方などに慣れていくことを教えてくれる人材を確保していきたいと考えております。現状では国がデジタル化を進める中で多くの予算

を計上しているので利用し、村として対応できる環境をつくりあげていきます。

私が先日、掲げた目標は以上となりますが、それ以外に今後進めていかなければならない事業や多くの課題などもあります。役場庁舎移転に伴い、防災計画の見直しも必要となってきました。新庁舎についても様々な意見をお聞きしますが、災害時の避難所の中心を役場庁舎とし、新庁舎を起点とした防災計画を進めていくことによりこの庁舎の価値が上がると考えます。鴨沢小中学校跡地の再利用については、少し時間は止まりますが、ここで再度、東部地域の方々の意見を個々に確認しながら、将来に向け皆様が少しでも納得できる方向にしていきたいと考えております。ここ数年議論を交わしています学校教育につきましても、再度、小中学校の教員、保護者、有識者、教育委員会との協議の場を設けどういう方向性が良いのかを慎重に進めていければと考えております。そのほかに公共施設の老朽化、水道事業の民営化、医療福祉の充実などありますが、今後、皆様のご意見を聞きながら対応していきたいと考えております。

話は重なりますが、これからの時代は、財政を考えると村のために、村民皆様のためにやらなければいけないことが進みにくいことも出

てくる可能性があります。その財政の課題を取り除くためにも、国や県の補助金、地域おこし協力隊や集落支援員の活用、ふるさと納税の推進、観光事業の活性化など村の収入をいかに増やすかという大きな課題が残されています。村民及び議員皆様のご理解ご協力も必要ですが、役場職員にかかる負担も大きなものとなります。

職員に最高の力を発揮してもらうためには、できるだけストレスの少ない、風通しのよい働きやすい職場づくりが必要だと考えます。あらゆる種類のハラスメントのない、すべての職員が安心して自分の能力を発揮でき、村民のために働ける職場づくりを進めたいと考えております。

最後になりますが、議員各位の丹波山村に対する思いを、この議会の場で、地方自治の本旨に則り、自由闊達で、生産的な議論を交わしていきたいと考えております。真に村民のための政治、そして村民のための行政を行う。さらによりよい丹波山村を、村民や議員の皆様と一緒に創り上げていく。この思いは、私どもも議員の皆様も、共有しているものだと考えております。多くの村民を幸せにするため、質の高い実のある議論を皆さんと行っていくことができるよう、誠意を持って、そして、全力を尽くしてまいる所存でございます。議員各位

と村民の皆様の御理解・御協力を賜りますよう重ねてお願いを申し上げます。以上を、私のあいさつと所信表明とさせていただきます。

